おきなわ同友会しんぶん
ニライ みらい

2016年（平成28年）
４月号
No. 337
発行：沖縄県中小企業家同友会
編集：広報委員会

〒901-0152
沖縄県那覇市字小禄1831番地1　沖縄産業支援センター603号
☎.098-859-6205㈹　FAX.098-859-6208
http://www.okinawa.doyu.jp
E-mail:doyu@okinawa.doyu.jp

同友会三つの目的

「よい会社、よい経営者、よい経営環境をめざす」

①同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強靭な経営体質をつくることをめざします。

21世紀に輝く No.151

効率より効果を考える

㈱機工　代表取締役　**田場 英行** 氏

昨年入会し、例会や学習会に参加し、経営指針作成講座を受講するなど積極的に同友会を活用している田場さん。「自分なんてまだまだなんだけどな」と照れながら、経営のこと、自分が成長してきたこと、そして一緒に働いている社員について語ってもらいました。

不安の中での交代

二〇〇〇年に前代表取締役である、お父様と会社を立ち上げ、今年十七期を迎えます。

会社の業務は、鉄工所で使用する工作機器等特殊な商品を扱っています。沖縄県内に鉄工所は、一〇〇〇ヵ所程度あり、取引している鉄工所は二〇〇社程度ということです。

機械を使用するときの消耗品等、お客様のニーズに合わせた提案型の営業を行っているというお話を伺い、最先端のソリューション営業を実践されていると感銘いたしました。

田場さんは、昨年七月にお父様より代表取締役を引継ぎました。それまでは、営業部長として、利益を追求することが重要であると考えていたため、不安のなかでの交代であったと振り返ります。交代の準備期間を伺うと、一か月程度であったとのこと。短時間での事業継承は、設立時からの心構えがあってのことだそうです。

経営指針作成講座を受講して

いざ、事業継承はしたものの、経営者としてどうすればいいのかと困られたとのことです。まず、初めに取り組まれたのが、同友会の「経営指針作成講座」の受講でした。その際に、先輩経営者に叱咤激励を受け、このままではいけないと感じたそうです。その後、幹部社員二名も受講し、社内での経営指針の共有を図っています。

経営指針作成講座の修了証と田場社長

その証拠に会社の入り口の目立つ場所に、受講証明の盾が三個飾られていました。又、その際に作成された経営理念も立派に額装され、壁に掛かっています。毎朝唱和されているとのことです。「経営指針作成講座は、とても良かった。いろんなことを学べた」とお話されたことが印象的でした。

さらに学びを深めるために、新たな研修にもどんどんチャレンジしているとのことです。

真にお客様、社員が望んでいることを実践

代表者になって、一番変わられたことを伺ったところ、今までは、利益さえあげればよい、あげなければ駄目だと考えていて、社員にも厳しく追及していたのですが、経営を学んだことにより、社員を大切にすることに気づき、実践するために今期のスローガンを、田場さん自身が「効率より効果を考える」と提案し決定したそうです。その意図は売上等の効率を注視することよりも、その効果が大切である。真にお客様、社員が望んでいることを実践することだと話されました。その効果について伺うと、社員の残業が減り、売り上げは上がったとのこと。さらに、社員の生活や将来のことを考え、コミュニケーションを深めることを意識しており、気づいた時には面談をしているとのことです。

又、二年に一回社員旅行を実施しており、今年の五月に二泊三日で黒部アルペンルートに出かけるとのこと。旅行先も社員の意見を募り決定したとのことです。

会社の目立つところに掲げているスローガン

最後に代表者になって良かったことを伺うと、「人間として成長できたこと」と話されました。プライベートでは、三人のお子様のお父様として、日曜日は、家族サービスを心がけているそうです。今年の四月一日には、ご長男も入社され、三代目として第一歩を踏み出しています。同友会デビューお待ちしています。

（平良純子）

《会社概要》

㈱機工

所在地／浦添市安波茶 2-5-7
ＴＥＬ／098-874-0380
事業内容／機械工具卸売業（産業機械、溶接機材販売）

第30回 定時総会

日　時　2016年**4月27日**（木）
午後４時～８時30分
会　場　パシフィックホテル沖縄

第Ⅰ部「総会議事」（PM4:00～5:30）
第Ⅱ部「記念講演」（PM5:45～7:00）
テーマ：経営指針に基づく同友会型企業づくり
講　師：㈱ヒロハマ　会長
広浜 泰久 氏（中同協幹事長）
第Ⅲ部「懇親パーティー」（7:15～8:30）
会　費：お一人　5,000円

茶論

春は出会いと別れの季節である。去った三月二十六日から三十日に、公益社団法人日本ＰＴＡ全国協議会主催の国内研修に参加した。北海道から沖縄まで、全ての都道府県から百十八名の中学二年生が渡嘉敷島に集い、島の気候風土、歴史、文化などを体験と交流を通して学んだ▼島の皆さんが「現地実行委員会」を組織して私達を迎え入れ、手づくりのワークショップで三線、琉舞、慶良間太鼓、エイサー、フラダンス等を体験させてくれた。また、シュノーケリングで世界有数の美しい海も満喫できた。海水浴初体験という参加者もいた▼入・退村式には渡嘉敷村長、副村長、教育委員長、ＰＴＡ会長等が出席し、村をあげて歓迎してくれた。短い期間であったが、最終日にはほとんどの者が涙し、別れを惜しんだ▼滞在中の二十八日が、この島で「集団自決」があった日であること、宿泊した「国立沖縄青少年交流の家」が、米軍ミサイル基地の跡地に開所した施設であることを知った。集団自決を生き残った方の体験談を聞く機会も得た。肉親同士が殺しあった狂気の現場は、想像を絶するものだった▼渡嘉敷では、春は慰霊の季節でもある。さまざまな地域を訪れ、交流することの大切さを実感した。

観光関連部会「守礼ネット会」設立20周年記念
全国観光フォーラムin沖縄

モビーディック号で開会式が行われました

三月四日・五日に開催された「全国観光フォーラムin沖縄」へは県内一一九名、県外より十八名の皆様にご参加をいただき、滞り無く終えることができました。

本フォーラムは今回で二度目の開催となり、第一回は二〇〇一年に発生した「米国同時多発テロ」の風評による、修学旅行を主体とした団体ツアーのキャンセルが続き、それを危惧して〝だいじょうぶさ～沖縄〟をメインテーマに「全国観光フォーラムin沖縄」として緊急開催でしたが、県内外から多数の参加者の下、沖縄観光の安全性と不変の平和維持について議論と理解を深め、観光が平和な社会を基盤として成り立つ産業であることを再認識する機会を得ました。

さて、守礼ネット会創立二〇周年記念事業として開催する今回は、早い段階から事業予算費の積立を開始し、運営委員を中心に会員有志で実行委員会を立ち上げ、併せて懸案していた観光研究会を発足して、産官学を配したアドバイザーと講師を囲んだ勉強会の開催（四回）など、本フォーラムの成功に向けて万全を期して取り組んできました。

特に海外入域観光客の倍増などで、好調に推移する昨今の観光の現状を踏まえ〝地域・人が輝く観光の未来〟をメインテーマに、観光部会ならではの企画内容を重視して①観光と農水産業との連携（観光＝環境＝健康）、②地域活性化・那覇まちまーい（人と地域のふれあい）、③伝統産業のイノベーション（古都首里の伝統に根ざした革新の活力）、④外国人観光客受入れと消費誘発（仕掛けと仕組みづくり）の特色有る四つの分科会を、期待感に溢れた開会式の直後に、貸切バス四台に分乗して〈大人遠足気分〉を味わいながらの見学分科会と致しました。

懇親会では、エイサーも披露されました

懇親会は創立二〇周年の祝賀ムードを盛り込んで《モビーデック号》の船上において、約二時間のナイトクルージングと多彩な余興を満喫していただき、来賓・参加者が中座することも無く、圧巻な全員総立ちのカチャーシーで興奮のうちに一日目を終えることができました。

二日目はパシフィックホテル沖縄において、沖縄県文化振興会理事長の平田大一氏による記念講演「観光産業から感動産業へ」では、メインテーマに相応しく、感動で育む人と地域の活性の重要性を学ぶ機会を得て、終盤での平田氏の打ち鳴らす太鼓の響きに心が振るえ、心地よい感動に包まれて二日間の日程に幕を閉じることができました。

これも偏に、ご参加をいただいた皆様をはじめ、本フォーラムの成功に向けご尽力いただいた関係各位、実行委員の皆様に紙面を借りて、厚く御礼申し上げます。

二日目 記念講演

記念講演の講師　平田太一氏

二日目は、分科会報告や守礼ネット会で取り組んできた「いちゃりばうちなー観光研究会」報告の後、「観光産業から感動産業へ～地域・人が輝く観光の未来へ～」をテーマに、公益財団法人沖縄県文化振興会の平田大一理事長による記念講演が行われました。

平田氏が沖縄県文化観光スポーツ部長時代にめざした「文化を基調とした地域づくり、人づくり」や、演出を手掛けてきた現代版組踊「肝高の阿麻和利」の舞台を通して、実践してきた人材育成の体験談など具体的に話されました。

講演途中には舞台を通して成長する子供達の姿の映像も流され、未来の人材育成の在り方について、大きな気づきが得られる内容となりました。

（実行委員長　比嘉　勤）

広報委員会 学習会 No.7
那覇まちまーい

牧志駅の下にある大きいシーサーからスタートしました

三月二一日、広報委員会では、那覇まちまーいに7名で参加してきました。今回のテーマは「これ、何ですか？沖縄の不思議と謎二五連発」ということで、ガイドの方に案内してもらい、那覇の壷屋、牧志の街中を散策しました。いつもは、通り過ぎる景色も、足を止め説明を聞くと、「そうなんだ！」と分かる発見がいっぱい。地元の人しか通らないようなすーじぐわぁを抜け、歴史を知り、沖縄てんぷらを食べ、とても楽しい時間でした。

参加者からの感想

- はじめて参加したが、改めて暮らしを垣間見れた
- 懐かしくて、まちまーい全コース制はしたくなった。特に夜のコースもあるようなので、次回はぜひ！
- まちまーいが好きで、県外から参加していた人もいてビックリしました
- まちまーいの良さをもっと知ってほしい。友達でも子どもと一緒に家族とでも一人でも楽しめます
- ベテランガイドさんのウラ話解説がおもしろかった
- つい最近も「歴史」になっているんだなぁと思った
- 散歩もできるので、いい運動にもなりました

散策の後は、てんぷらとさんぴん茶で一息

社労士・コンサルタント
青山喜佐子の
知って得する シリーズ125

ドローン型

最近話題のドローン。遠隔操縦できる小型無人航空機のことで、沖縄でも数多く飛んでいるようです。今年の新入社員のタイプになりました。説明は次のとおりです。

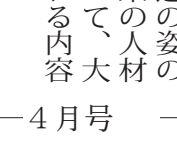
強い風（就職活動日程や経済状況などのめまぐるしい変化）にあおられたが、なんとか自律飛行を保ち、目標地点に着地（希望の内定を確保）できた者が多かった。

免許もなく特別な専門家でなくても操縦できますが、操縦ミスによる事故の危険も大きい。上司や先輩の操縦ミスで、機体を傷つけたり、早期離職には要注意。多くは充電式なので、長時間の酷使には耐えられません。技術革新（本人のスキルアップ）によって、様々な場面での貢献が期待できます。世界を広く俯瞰できるようになってほしい。ただ夜間飛行（深夜残業）や目視外飛行は規制があり、ルールを守った運用や使用者の技量（ワークライフバランス）への配慮や適性の見極をしながら安全性にも配慮が必要。

今年の新入社員のタイプ

天気もよく、障害物もないところでは問題なく目的地へ飛ぶドローンも、ひとたび環境が悪くなると対応は難しい。しかし、心配ばかりでその行動を抑えるのでは、本人も社会の成長も期待できません。ドローンを使えば、これまでできなかったことが、素早く容易に行うことができたりします。これからの活躍が期待できるドローン新人。

より進んだ技術で、ルールを守って、安全かつ有効に使えるようにするための職場全体の英知が求められています。



〈プロフィール〉
社会保険労務士
日本産業カウンセラー
大学非常勤講師
市町村行政改革推進委員など
オフィスあるふぁ
TEL/098-870-6686

青山喜佐子（あおやまきさこ）
（オフィスあるふぁ代表）

全国観光フォーラムでは初日、開会式が終わると、バスに乗り、それぞれ四つの分科会へ分かれ移動しました。実際に見学したあとに報告を聞くという流れは、一層内容を深めることができました。

農水産業、地域活性化、伝統産業、外国人観光客の受け入れと様々な角度から、観光について、考えていきました。

全国観光フォーラム in 沖縄　分科会報告

地域・人が輝く観光の未来

第１分科会（観光と農水産業）

観光＝環境＝健康
～観光を支える農水産業の未来～

報告者　㈱沖縄物産企業連合 会長　宮城 弘岩 氏

宮城弘岩氏による報告

まず初めに第一分科会はファーマーズマーケットいとまん「うまんちゅ市場」の見学を行いました。

売上では県内はもとより、全国的にもトップクラスに入るという「うまんちゅ市場」の店内の見学を終え、担当者から一通りの説明を受けたあとに、質問となりましたが参加者のみなさんから興味旺盛で数多くの質問が寄せられ、大変盛り上がりました。

続いて分科会会場までの道中、車中より、沖縄の野菜の大半を生産しているという豊見城市の大規模な野菜団地を見学しました。

車中では本分科会の講師である宮城弘岩氏に、ＤＶＤを使って大宜味村での「豆苗」を生産する植物工場の取り組みを説明していただいた。

その後、会場である沖縄県立武道館「研修室」に到着し、「観光と農水産業」というテーマでの分科会となりました。

多岐にわたる資料を使った興味深い講話であったが、かいつまんでまとめさせていただくと、世界的にも有名な観光地ハワイの過去から現在までの観光行政を引き合いに、世界の主な観光地の過去から現在まで推移も交え、今後の沖縄での観光の持続的・発展的な推進を図るうえで、地場の農水産業との連携を図ることがいかに大切であるかという内容であった。

観光というと風光明媚であるとか、よく思い浮かぶ一般的な観光資源が取りざたされてくるが、宮城氏の講話には農水に纏わる深い知識から、具体的な取り組みのヒントを得た気がした。

続いて行われたグループ討論では頂いた講話を基に、活発な討論がなされ充実した発表がなされた。

（㈱エスペレ　濱畑直哉）

うまんちゅ市場の見学

第２分科会（地域活性化と観光）（那覇まちま～い）

人がつながり、地域が輝く那覇まち歩き
～ふれあい、出会う観光地那覇をめざして～

報告者　（一社）那覇市観光協会マネージャー　千住直広 氏

那覇市の活性化に向けての取り組みを紹介しました

第二分科会は、講師に那覇市観光課の千住さんを迎え、那覇市の国際通りを中心とした「まちまーい」を実施しました。「まちまーい」は、観光客を中心に今までとは違う角度から那覇を楽しむためのまち歩きです。

今回は国際通りの商業地域周辺の四コースを、ガイドの方に案内して頂き、各グループで歩いて回りました。①国際通りを歩く②国際通りのワキ道ヨコ道ウラの道③那覇の市場迷宮めぐり④壺屋のツボやちむん通りとすーじぐぁーのコースに分かれました。通常、歴史や文化のお話、裏道や新旧の興味深いスポットの案内など、リピーターや県民でも楽しめる内容の「まちまーい」ですが、今回は、非常にタイトなスケジュールという事もあり、短時間での「まちまーい」となりました。

しかし、ベテランのガイドさんが小走りで案内して下さり、各ポイントでの説明など、那覇市の商業地域の取り組みや課題などを実際に肌で感じる事ができました。各チームとも、那覇国際通りとその周辺における、移住者の開店や店舗の変化、事業承継や老朽化、雇用といった問題、その他様々な課題を知るきっかけとなりました。

沖縄は、日銀短観でも表わされているように、経済の成長と期待が全国一ですが、実際潤っていると感じる企業は多くなく、県外企業の沖縄進出等、利益のある企業が必ず県内企業ではないという現実にも直面しています。

今後も国内観光やインバウンドに向けての取り組み、地域の活性には欠かせない県内需要など、経営者が考えるべき要素がたくさんあると認識できた分科会となりました。

（㈱ディネアンドインディー　五代真紀子）

第３分科会（伝統産業のイノベーション）

伝統と革新のコラボレーションで古都首里に活力を

報告者　㈲首里琉染 社長　大城 裕美 氏
瑞泉酒造㈱ 社長　佐久本 学 氏

千住直広氏

第三分科会は、染物と泡盛の分野で伝統産業を守りつつ、新たな魅力ある製品・サービスづくりに取り組む二社の企業見学と報告でした。

一社目は一八八七年より首里にて琉球泡盛の製造・販売を営む瑞泉酒造㈱。報告者は六代目社長の佐久本学氏。ＴＶの影響でやってきた沖縄ブームで泡盛移出量も増加しましたが、二〇〇三年の焼酎ブームで低迷します。佐久本社長は時流に乗っている時こそ新たな可能性を打ち出すべきだったと振り返りました。現在の瑞泉酒造は、東京大学、ユニクロ、南風原町、アーティストと多種多様な連携商品を開発しながら、二〇〇二年からはニューヨークを皮切りに二〇か国へ輸出も始めています。「私の考える伝統と革新とは「守」「破」「離」。伝統ある泡盛造りを継承しながら、時代に合った商品開発、営業活動、情報発信が不可欠、そして「沖縄色からの脱却」と報告しました。

瑞泉酒造では、お酒の試飲もしました

二社目は一九七三年、京都の染色作家山岡古都氏によって設立された㈲首里琉染。報告者は創業者の長女、大城裕美氏。風情ある合掌造りの店舗と色鮮やかな商品の数々に迎えられた工房見学は京都から参加した県外同友会会員のみならず、地元沖縄の会員をも魅了しました。

大城裕美氏（右）と座長の座間味亮氏

かつては多くの観光客で賑わっていましたが、一九九二年、首里城が開園されると観光客の流れが一挙に変わり、売上高が激減、厳しい状態を強いられました。そこで、観光本来のあり方が「見学」から「体験」に変わったことに着眼し、首里琉染でしか体験できない「サンゴ染体験」を取り入れたことで観光コースに取り入れられるようになりました。

さらに自社の施設だけではなく、観光客がゆっくりと散策しながら楽しめる首里の町、そのものを作り上げる必要性を感じ、現在「ＮＰＯ首里まちつくり研究会」の理事長として奮闘しています。沖縄同友会が取り組んでいる地域振興条例、政策提言も今後は重要だと感じます。この第三分科会は京都同友会から十一名の参加があり、県外者の視点も交えた活発な質疑応答で、相互に理解を深めあう場面が多くあったのが印象的な分科会でした。

（㈱共栄環境　下田美智代）

社員と共に学びあう

第15期「社長・社員共育塾」

・幹部（候補）社員と経営者が共に学びあう

日　程：６月～３月（全７講）
時　間：午後６時～９時

第１講	６月22日（水）	第２講	７月20日（水）
第３講	９月21日（水）	第４講	10月19日（水）
第５講	11月16日（水）	第６講	１月18日（水）
第７講	２月22日（水）	修了式	３月15日（水）

新人フォローアップ研修会

・新入社員から入社５年目までの社員対象

日　程：５月～２月（全６講）
時　間：午後６時～８時30分

第１回	５月23日（月）	第２回	６月24日（金）
第３回	７月25日（月）	第４回	９月26日（月）
第５回	11月28日（月）	第６回	２月27日（月）

※両方とも会場は「沖縄産業支援センター」です。
詳しい内容は同友会事務局までお問い合わせ下さい。

第４分科会
（外国人観光客受入と消費誘発）
（パネルディスカッション）

増える外国人観光客を掴むための仕掛けと仕組みづくり

パネリスト　㈱御菓子御殿　社長　澤岻英樹氏
パネリスト　㈱パラダイスプラン　社長　西里長治氏
コーディネーター　Japan & Asia Biz Support 行政書士事務所　所長　比屋根拓氏

第四分科会は、沖縄お土産で人気の御菓子「紅いもタルト」の製造販売またレストラン経営の㈱御菓子御殿の澤岻社長、塩屋「マース屋」で有名な製塩事業、製菓製造販売また塩の専門店を経営する㈱パラダイスプランの西里社長のパネリストでJapan & Asia Biz Support 行政書士事務所　比屋根社長コーディネーターによる「増える外国人観光客を掴むための仕掛けと仕組みづくり」をテーマにした分科会でした。

アジア各国から増える観光客への対応、各国文化の理解や「ハラール」対応食品などインバウドの仕掛け、仕組みに取組む企業二社の店舗見学とパネルディスカッションで学びました。日本の観光客からは日本のなかでも独特の文化を持つ日本らしくない「沖縄」を感じていますが、数年増え続けているアジアからの外国人観光客は沖縄であっても日本として見ていてまた日本らしさを求められてきております。

海外向け商品開発では、パッケージでも英字やその国の文字を印字するより、そのまま日本語にしてあえてMADE IN JAPANにする事が良いし、アジア各国に受ける商品造りよりも、独自のカラーを出した商品をつくる事が大切であることを学びました。

塩屋の見学

パネリストの澤岻英樹氏（左）と西里長治

また二社とも台湾などアジアの従業員を雇用しており、社内での語学勉強会をしながら文化の違う従業員への社員教育を行っています。外国人労働者ではなく、センタープレイヤーとして育てています。西里社長よりインバウンドは時代の流れであって今後加速してグローバル化になり、国境の壁も低くなって行くなかで多様な人材を集めきれないと多様なニーズに応えきれない。自社の理念を強く持って人材を確保していかなくてはいけないなど、比屋根社長コーディネートにより澤岻社長、西里社長からいろいろな話を引き出してもらったパネルディスカッションでした。

（㈱IMI CORPORATION　池田雅人）

観光フォーラム感想

・観光を発展させていくには、やはり人と文化が重要だと感じました。沖縄ならではのオリジナリティ、沖縄だからこそ！の伝統芸能をとり入れたり、地元から次の世代とともに発信することが大切だと感じました。

・観光はレジャー施設等だけではなく、資源を活かした無限大の可能性があることから、私もなんらかの形で観光産業に関わっていきたい。

・観光産業から感動産業へというテーマにとても共感しました。異業種の方達とグループ討論が出来、目線を変えるといろんな取り組みが可能になるんだなと視野が広がりました。

・平田さんの講演はパワーを頂きました。地域に戻りましたらコミュニティ作りに参加し、次世代と地元の文化を大切にいたします。平田さんのファンになりました。

・伝統的な事業も革新が必要と感じました。記念講演では、とても感動しました。

・懇親会のクルージングも記念講演の平田さんの話も凄く良かった。自ら動いて体験・経験している事で言葉に重みがあった。

・自分の会社とは関係ない内容だと感じていましたが、全てに関係していました。最高の企画でした。

・地産地消が大切ということで、私が今できる事はないのかと考えさせられました。

３月県例会

想いを共有する仲間が突破口

～よい経営者になるために、奇跡の子ども病院設立に学ぶ～

コーディーネーターの宮里敏行氏（左）とパネリスト３名

三月十七日、三月県例会が「奇跡の子ども病院」編集委員の田頭妙子氏、玉城よし子氏、金城清美氏らをパネリストに迎え行われ、一三六人の参加者が産業支援センターホールに集まりました。

先ず、コーディネーターの宮里敏夫副代表理事が、ご自身の子ども時代に患った心臓病、島嶼地域ならではのハンディ、守る会でのボランティア活動について触れ①人は変われる②人は基本的にネガティブである③リーダーがブレなければ道は開ける、と体験から得た学びを経営に活かしていると話されました。

次に田頭氏より守る会の結成から病院設立運動が開始されるまでの話がありました。田頭氏は、子どもを亡くされた後に「沖縄の子は沖縄で守る」との強い想いで復帰の翌年に先頭になって会を設立されました。会の活動を通し、これまでのやり方、様々な認識を改め運動の方法を転換していったプロセスについて触れられました。そして「今やらなければ、次の機会は四十年後」と強い想いで運動に参加し、一度も辞めたいと思ったことがないと話されました。

実体験に基づいた話を真剣なまなざしで聞く参加者

金城氏は、子どもの死で運動から身を引いた時期もありましたが「素晴らしい仲間との出会いをくれた娘さんに感謝している」と自身の体験、患者の立場から運動を続けています。二〇一五年十一月に十周年を迎えた子ども病院は、併設されている南部医療センターのお陰で、成人に達しても統合的な治療ができる先進的な医療施設として、その成果を世界中に発信していることに触れられました。

玉城氏は、お子さんの為の入会から、会員各々ができる時にできる事で会に参画する。認め合える場であったからこそ現在、事務局として中心的に活動していけた過程について触れられました。一九九五年の運動開始から十二年間、毎週一回仲間と語り合い、様々な方面からアドバイスを貰い、周囲を巻き込みながら地道に途切れることなく活動してきました。「子どもの医療は将来への投資」をブレることなく県民のコンセンサスを得るため一致団結して運動ができたことを話されました。この一滴の想いが大河なっていく詳細は、「奇跡のこども病院」（ボーダーインク）でぜひお読みください。

（大城朝野）

沖縄県議会（経済労働委員会）議員との合同勉強会を開催

去る二月十六日、初の沖縄県議会（経済労働委員会）議員との合同勉強会を沖縄県議会会議室で開催し、沖縄同友会より正副代表理事と政策委員会の八名、沖縄県議会経済労働委員会からは十二名中十一名が参加しました。

今回は、同友会が県に提出している政策要望・提言の中の、「外形標準課税の適用拡大反対」、「人材確保」の二つにテーマを絞り、意見交換を行いました。

初めは両者とも勝手がわからず、なかなか発言が出ない時間もありましたが、「人材確保」の件について、同友会より各業界の切実な現状が報告されると、それに呼応して、議員からも多くの質問・意見が出されました。

特に人手不足が顕著な建設業界について、県議会では、建設業で人材育成・確保が進むよう、県発注工事の最低制限価格を上げていくことや、導入が進められている鉄軌道の工事に県内業者が関われるようにすることなど、県に対して働きかけている報告がありました。同友会からは、未来のIT人材育成のためにはじめた「ITまつり」や障がい者雇用促進のためにはじめた「雇用・就労支援フォーラム」が、県のタイアップ事業となり、広がりを見せていること、女性の社会進出に向けた課題解決に向けた取り組み、生産年齢人口減少に備え、県外や海外の人材活用など、人材育成から派生して様々な訴えを行いました。

学習会の様子

こうした　やりとりを受け、議員からは、「一口に中小企業の課題といっても、幅広く多岐に渡っていることがわかった。」、「同友会は企業家の団体だが、労働者のことも考えた提言もあり驚いた」といった感想が出されました。最後に新城恵子代表理事がお礼の挨拶とあわせて、「外形標準課税が中小企業に導入されると、県経済に与える影響は多大であり、ぜひ県議会としても検討してほしい」と訴えました。今回の合同勉強会は双方から有意義だったとの声が多くあり、今後、運営方法を検討しながら定期的に開催していくことが確認されました。

フォトで見る３月の活動

浦西支部では、名刺交換会で楽しく交流しました

新会員オリエンテーション IN 北部

沖縄21世紀ビジョン・地方創生総合戦略学習会

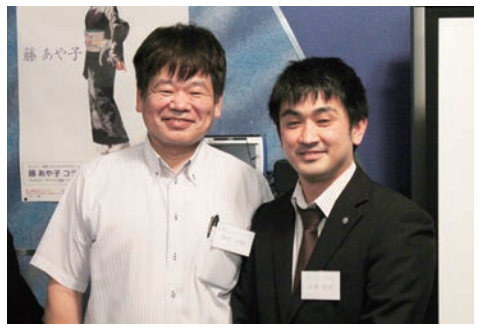
完成した那覇市津波避難ビルの視察
－みらい21視察見学会－

懇親会で、楽しい一コマ
－全国観光フォーラム－

全国観光フォーラムの実行委員長の比嘉勤氏

まさひろ酒造の見学
－那覇支部会員交流バスツアー－

那覇支部会員交流バスツアー


西平中部支部長と新会員の吉本さん
－中部支部新会員オリエンテーション

ｅおきなわ例会の報告者
山城智美氏

経営サポート学習会の講師
青山喜佐子氏

３月県例会グループ長研修会

共育塾修了式後の懇親会

中部支部オリエンテーション

那覇支部南地区例会

社長・社員共育塾の修了式での修了書授与

うりずん経営基礎学習会

高校の先生と経営者との意見交換を行ないました

わが社のポリシー　第256回

農業生産法人
㈱オルタナティブファーム宮古
代表取締役　松本 克也 氏

地域・お客様と共に成長を続けます

○安全・安心で美味しく、人の健康に資する『食』を提供し、普及啓蒙します。
○無農薬有機栽培で持続可能な循環型農業を実践し、水・土の自然環境の改善に努めます。
○百年後に事業の真価が社会評価を受けるような社会性の高い事業たることを目指します。
○人の喜び・成長に貢献することが、すなわち私たち自身の喜びとして、地域・お客様と共に成長を続けます。

松本克也 氏

これは昨年の経営指針作成講座を受講された松本さんが成文化した経営理念です。二〇一二年八月の創業からもうすぐ四年。創業期の様々な困難を克服しながら前進を続けています。

同社の事業は大きく二つ。一つは無農薬・有機サトウキビの栽培・加工。二つめはマンゴー酵素飲料の製造です。最近では、代表商品「くとうみつ」が国産農水産物を使ったすぐれた商品を評価するフードアクションニッポンアワード２０１５で入賞。宮古支部の㈲楽園の果実とのコラボ商品「くとうみつジェラート」が宮古島コラボグランプリで準グランプリを受賞するなど、松本さんのこだわりが認められてきています。冒頭紹介した理念がどのように事業に反映されているかお伺いする中で、家庭で黒糖づくりが体験できる「おうちで黒糖チャレンジ」という商品をご紹介いただきました。地域産業の社会科学習のほか、製造過程は科学的要素もあり、理科・家庭科の食育教材としても活用いただけるのではないかと考えています。社会性の高い取り組みです。

こうした取り組みを支える財務体質の強化が喫緊の課題でしたが、マンゴー酵素飲料の量産が可能になったことで光明が差してきました。まずはこの事業を軌道に乗せ、さらに良い商品づくりに励む。基盤がある程度整ってきたらしっかりと雇用にも挑戦していきたいと力強く話す松本さん。今後の成長・発展に期待です。

農業生産法人
㈱オルタナティブファーム宮古
代表取締役 松本克也 氏
所在地／宮古島市下地与那覇53
ＴＥＬ／090-7205-5199
事業内容／農業（生産・加工・販売）

中小企業の組織づくり
引継体制をしっかり作ろう

㈱経営戦略オフィス
代表取締役　井海宏通
TEL：098−857−3278

社員が休みを取りやすい会社にするには、一つの業務や一人の顧客を複数の社員で担当する体制づくりが必要です。

業務や顧客を特定の社員だけが担当するのは簡単です。管理する側も楽ですし、担当する側も効率的です。しかし、これだと長時間勤務になりがちで休みが取りづらくなります。結局、仕事と家庭の両立を求める人材をつなぎ止める事が難しくなります。

複数担当制にするには、何といっても引継体制が重要です。

まず、情報管理の一元化が必要です。情報は全て記録し（記憶ではなく）、書類やデータは会社として管理しなければなりません。会社が管理するという事は、保管場所を決めるという事です。当然ながら整理整頓は必須です。

また、業務手順の標準化もしなければなりません。社員によって方法論が異なると、担当が固定化します。全てをマニュアル化する必要はありませんが、重要ポイントなどは共有すべきです。

そして、引継体制は担当者が休む時に慌てて作るのではなく、「社員は休むもの」と頭を切り替え、普段からバックアップ体制を作っておく事が大切です。これもチームワークです。

お知り合いの経営者をお誘いしましょう

1 取引先と共に育つ

得意先、仕入れ先など様々な取引先が入会し、同友会で学び、経営指針の確立などを通して、企業の体質を強化することは、自社の経営の安定につながるとともに、これまで以上に切磋琢磨しあって質の高い仕事に挑戦することが出来ます。

2「ミニ例会」学びの場

会員増強で相手先の企業の経営課題や悩み、業界の動向、地域戦略などを聞き、その解決の方法を共に考えることは、自分自身と自社にとって貴重な学びの場です。会員増強のための企業訪問を「ミニ例会」と考え、訪問先では「討論」しましょう。

会員ホット情報
今おすすめだよ！

身体に優しい商品を沖縄から世界へ

おいしそうなアロエジュースやタンカンジュースなど

アロエベラジュースって知っていますか？

名護市の豊かな自然にある㈲沖縄アロエは、当時、アメリカからアロエを仕入れ、栽培したアロエベラを清涼飲料水（アロエベラジュース）として開発し、一大ブームとなりました。アロエには栄養素や成分が含まれており、抗酸化効果や美容効果もあるそうです。そんな、アロエベラジュースを開発した創業者の湧川さんは、創業からずっとアロエの研究に没頭し、お客様の役に立てる商品の開発をしてきました。今では、アロエベラジュースの他にもタンカンやシークワサー、カーブチーなどのジュース、ジャムやゼリーなど約五〇種類も生産しており、その中でも、甘みがあり飲みやすい、一〇〇％完熟シークワサージュースがイチオシ商品です。

現在、従業員は十七名と小さい会社ではありますが、従業員と共にこれからも日々商品開発し、いずれは、沖縄から世界に商品が広められたら良いですね、と語って下さいました。

常に厳しい衛生管理をしているからこそ、安心・安全・新鮮な商品を提供できる、㈲沖縄アロエの商品を一度飲んでみてはいかがでしょうか？

湧川英男氏（中央）と幹部社員

㈲沖縄アロエ
代表取締役　**湧川 英男** 氏
所在地／名護市字呉我744-1
ＴＥＬ／0980-58-3085
事業内容／製造業（ジュース製造）
ＵＲＬ／http://okinawaaloe.com

八重山支部・碧の会　3月合同例会

三月十日、八重山支部と碧の会の合同例会が石垣島のホテルミヤヒラで開催されました。本島より十九名が参加し、八重山支部会員、ゲストも含めて、四〇名での学び・懇親の場となりました。

報告者の宮里真由美氏（左）と座長の與崎文美氏

例会は、碧の会部長の宮里真由美氏（三建設備㈱社長）がテーマ「未来に向かって社員と共に歩み成長する経営～経営指針を実践する過程でみえてきた～」で報告を行いました。創業者の父親から引き継ぎいだものの、決算で赤字を出してしまい、経営指針作成講座を受講しました。そこで、経営理念を変えようと思い、挑みましたが「あなたが語っていることは、父親が作った経営理念そのものだよ。変える必要があるのか」と言われ、そのままにすることにしました。

盛りあがったグループ討論

職人さんが多く、女性経営者ということで、最初は大変なこともありましたが、定期的に議論を重ね、全体のバランスを見ながら社員と一丸となりがんばってきました。全社員の年齢を示したイヤーズプランを作り、五年後十年後の計画も立てやすくなりました。宮里社長の、社員を大切にし一緒に歩んでいきたいという思いがつまった報告でした。グループ討論では、活発な意見交換をしました。

八重山支部と碧の会はこれからも協力していきます

例会終了後、懇親会を行い、さらに熱く交流し、八重山支部の活性化に向けてこれからも協力し、学び合うことを確認しました。

読者の声

と、突然の原稿依頼が愛する事務局からあり、ハイかＹｅｓしか返事は無いので、ハイとの良い返事をしましたが……。いつも下から読んだり、裏から読んだり、斜めに読んだりとの不良読者ですが、パスしない記事は、背中に冷や汗をかきながらニヤニヤしながらウチアタイしながらの『ビジネスニヤンが行く』と、誰が書いたのかは知らないが、含蓄のある『茶論』です。それと美人さんが登場した時の『フェイスフェイス』ですね。（笑い）そして記事全般から皆さんが同友会理念に真剣に取り組んでいらっしゃる事がヒシヒシと感じます。そして私は反省。最後に編集に頑張っている広報委員会の皆様に感謝申し上げます。

（㈱東日産自動車・赤嶺英仁）

支部・部会総会について

支部総会

①北部支部　第27回支部総会
日　程：５月16日（月）18:30～21:30
会　場：ＩＺＵＭＯ

②中部支部　第29回支部総会
日　程：５月20日（金）18:30～21:30
会　場：コスタビスタ沖縄

③浦西支部　第21回支部総会
日　程：５月13日（金）18:00～21:00
会　場：てだこホール市民交流室

④那覇支部　第18回支部総会
日　程：５月17日（火）18:00～21:00
会　場：沖縄産業支援センター

⑤南部支部　第21回支部総会
日　程：５月12日（木）（調整中）
会　場：ちむぐくる館

⑥宮古支部　第24回支部総会
日　程：５月14日（土）16:30～20:00
会　場：ホテル共和

⑦八重山支部　第26回支部総会
日　程：５月18日（水）18:30～21:30
会　場：ホテルミヤヒラ

部会総会

⑧碧の会（女性経営者部会）第28回総会
日　程：５月11日（水）13:30～17:00
会　場：沖縄産業支援センター

⑨うりずん（若手経営者部会）第９回総会
日　程：５月７日（土）16:30～21:00
会　場：沖縄産業支援センター

＜業種４部会は、合同で開催します＞
■守礼ネット会（観光関連部会）第22回総会
■みらい２１（建設関連部会）第16回総会
■ｅおきなわ（情報関連部会）第16回総会
■エコま～る（環境関連部会）第13回総会
日　程：５月９日（月）18:00～21:30
会　場：沖縄産業支援センター

文進印刷株式会社
本　社／〒901-0306　沖縄県糸満市西崎町5丁目10－14
TEL (098) 994-5777 (代) FAX (098) 852-3008
那覇営業所／〒902-0074　沖縄県那覇市字仲井真201番地18
TEL (098) 855-2323（代）FAX (098) 852-3008
浦添営業所／〒901-2111　沖縄県浦添市経塚811－14
TEL (098) 879-9303（代）FAX (098) 852-3008
宜野湾営業所／〒901-2224　沖縄県宜野湾市真志喜2丁目4番16 コーポ下地203号
TEL (098) 898-1055（代）FAX (098) 852-3008
沖縄営業所／〒904-2165　沖縄県沖縄市宮里２丁目１番３号
TEL (098) 937-8607（代）FAX (098) 852-3008
宮古島営業所／〒906-0015　沖縄県宮古島市平良久貝836-3 プレステージ久貝102
TEL (0980) 73-1552（代）FAX (098) 852-3008
平成19年２月６日、個人情報保護のための仕組みである、JISQ15001:2006（プライバシーマーク 認定番号24000306 (04)）を取得いたしました。
＜南部支部会員＞